大原騒動史跡巡りのご案内

大会参加の皆様、大会で学習後はせっかくの岐阜県です、少し足を伸ばして高山観光はいかがですか。岐阜市から高山市に至るには、ＪＲ高山本線を利用するか、車なら東海北陸自動車岐阜ＩＣを北上、又は国道４１号を北上の３通りがあります。

この稿は数多い高山観光案内と異なって、かっての高山町から飛騨一円で明和・安永・天明期（1771～1789)に起きた俗称大原騒動という百姓一揆史跡巡りの案内です。

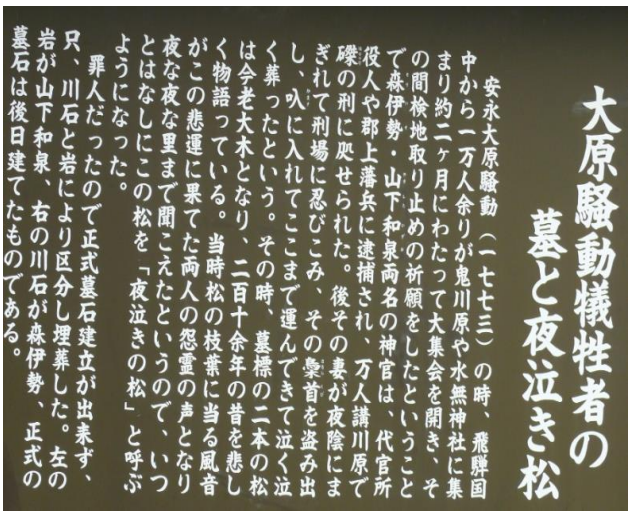
大原騒動は上記３元号（約 19 年間）の間に３回に亘って起きました。「大原」の俗称は当時天領飛騨の代官(後に郡代）の姓、大原彦四郎・亀五郎父子に由来します。大原代官の検地(増税）数々の不正等々に、飛騨の百姓達は考えられる限りの命がけの訴訟を敢行、その闘いは百姓側も親子２代２０年近くに及びました。

この百姓一揆は全国の一揆の中でも多くの異なる特質を備えているのですが結果だけ明記します。騒動は最終で百姓側が勝利し郡代大原亀五郎は八丈島に流罪、一方百姓側は落命者(死罪・騒動死･牢死等々）３０名以上、流罪・追放は正確には数知れず、過料（罰金）等１万人以上という大変な犠牲者を出しました。

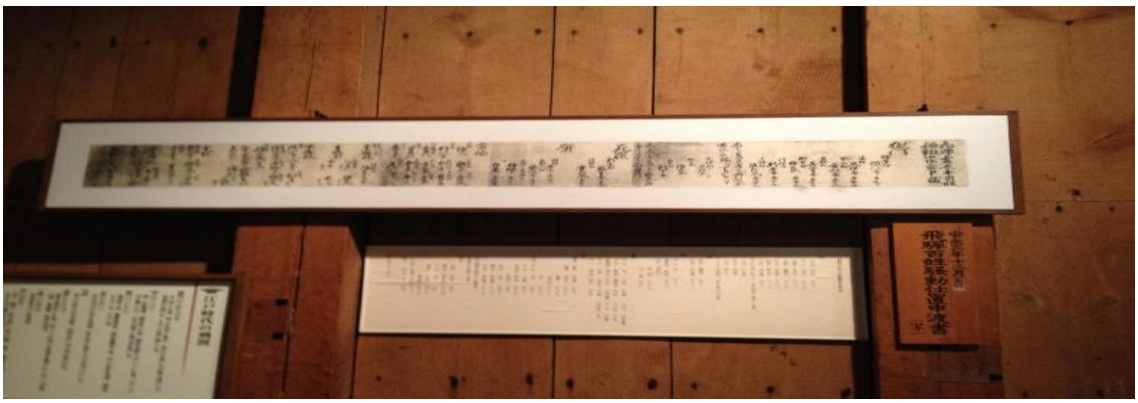
さて、史跡巡りです。ＪＲ高山本線の一ノ宮駅近くの水無神社とその周辺。ここは安永期の騒動で百姓達が２か月近くに亘り集結したところです。多いときにはその数は１万人を超えていました。今も残る拝殿には一揆の指導者層が詰めていました。代官側は郡上藩の援兵を得て鉄砲を使用して鎮圧しました。
鉄砲で撃ち殺された百姓もいました。今はその社内に「一宮大集会之地」という石碑が建っています。

一之宮駅に戻ったら鉄路の反対側に１０分ぐらい歩くと、当地では有名な臥龍桜の名巨木があります。そこを高山市内の方に草中の小さな小道を２００m 程行くと、知る人

ぞ知る「夜泣きの松」があります。謂われは下の写真をどうぞ。水無神社の神官森伊勢・山下和泉の２人は百姓側の頼みで祈祷をしたために、磔にされたのです。水無神社の石碑も「夜泣きの松」も今は足を運び目に留める人の少ないのは寂しいことです。



ＪＲ高山駅から徒歩１０分程で高山観光のメインの１つ、陣屋跡があります。ここはやはり安永騒動の時、３０００人を越える百姓達が極寒の玄関前に、要求を掲げて押し寄せた代官所でした。大原彦四郎代官は一旦は要求を受け入れるような虚言を弄して百姓達を愚弄したのです。陣屋の中にも是非入ってください。中にはこの騒動で百姓達を取り調べた白州に拷問の道具、壁には判決文（飛騨百姓騒動仕置申渡書）もあります。



さて、陣屋跡から国分寺通りを目指して歩くこと１０分程で、飛騨国分寺に到着です。ここは明和騒動（第１回の騒動）で百姓達数千人(最盛期）が数日に亘って立て籠もった

所です。この騒動では、百姓達は代官側よりの商家を何軒も打ち壊しています。

最後の案内は桐生町の万人講。ここは元来処刑場でした。上記２名の神官の磔も外の百姓達の磔刑も、江戸から戻された駕籠訴人の獄門もここで行われました。今は小さな公園のようになっていますが、「南無三世諸仏」の石碑が往時を偲ばせてくれます。

以上、僅かですが大原騒動史跡巡りの案内をさせていただきました。

大原騒動の史跡・供養塔等は、実はまだまだ無数近くにあります。平成の合併で、面積だけは東京都並の広さになった高山市は、市内という表示だけで訪れると、実は大変な遠隔地ということがありますから注意してください。この案内で紹介した場所中、水無神社と「夜泣きの松」は旧高山市からは少し離れていますが、他はそういう心配はありません。

近年、高山市は外国人観光客も多く、賑わいをみせています。しかし、大原騒動に着目する人は飛騨でも少なくなっている気がします。私はここ１０年近く大原騒動を追い続けています。それは大原騒動こそ、故郷飛騨人の最大の遺産だと思っているからです。

（三橋政信）